

みなとだより

2007.
Vol.
54

●ポートエッセイ

12 桐島ノエル

●FEATURE

14 エネルギー港湾が支える
都市の産業と人々の暮らし

●世界の港

18 ドバイ港 (アラブ首長国連邦)

●みなと発見

20 輪島港 (石川県)

●みなとビューマンレポート

23 植物検疫官

【特集】

港から リサイクル

みなとのQ & A

Q 船の速度を表す「ノット」という単位には、どのような意味があるのでしょうか？



A 船の速度を表す単位として「ノット」が使われるようになったのは15世紀のこと。1ノットは1時間に1海里進む速度（時速約1.85km）で、1海里は子午線の緯度1分（約1852m）に相当します。ノットの語源ですが、昔は一定間隔で結び目をつけたロープを、船が進むのに従って伸ばしていき、一定時間で結び目が何個海に出たかによって船の速度を測っていました。このロープの結び目のことを英語でノット（Knot）と言うのです。このため、船の速度の単位をノットと呼ぶようになりました。

写真／横山正次



編集協力／国土交通省港湾局
発行／(社)日本港湾協会
ホームページ<http://www.phaj.or.jp>

海とみなとの相談窓口



大いに良くなれみなと
0120-497-370

受付時間
9:00～12:00と13:00～17:00
(土・日・祝祭日を除く)

●表紙の写真

酒田港（山形県）に設置された風力発電施設。リサイクルポートの一つである同港では、静脈物流の拠点港として進展する一方で、新エネルギー開発など、地域の環境対策にも力を入れている（本文8ページ）。

写真／相澤 正